

(議案第1号)

## 平成22年度事業報告について

項 目	内 容
1 世界遺産登録への取り組み状況	<p>(1) 松本市は平成18年11月30日、長野県と共同で、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に提出する世界遺産登録の国内候補を載せた「暫定一覧表(リスト)」に、国宝松本城を推薦する提案書を、文化庁に提出した。</p> <p>(2) その後、文化庁の審査で「継続審議案件」となり、平成19年12月再提案書と検討状況報告書を提出し、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」で研究を進めることを報告し、平成20年3月、世界文化遺産特別委員会ワーキンググループのヒアリングを受けた。</p> <p>(3) また、1、2月には松本市長と彦根市長・犬山市長の間で今後「近世城郭群」で研究を進めることの合意が得られ、3月に事務レベル会議を実施した。</p> <p>(4) 平成20年9月には、文化庁文化審議会文化財分科会世界遺産特別委員会から「カテゴリーI b」に該当という審議結果を受けた。</p> <p>(5) 彦根市、犬山市と国宝四城近世城郭群での研究を進めるとともに、文化庁からの課題である「城郭及び城下町等の世界的視野での普遍的価値」について研究を進めてきた。</p>
2 松本城関係文化財の保護活動	<p>(1) 土塁を表示した歴史公園として西総堀土塁公園（土井尻・平成19年2月史跡追加）の供用を開始。</p> <p>(2) 南・西外堀復元と内環状北線（先線）の一体的整備に向けた地元説明会の開催</p>

	<p>(3) 松本城下町、松本藩に関係した文化財の指定・登録  (登録有形文化財 2 件、市重要文化財 1 2 件、市特別史跡 2 件、市特別天然記念物 8 件)</p> <p>(4) 松本城下町関係文化財の調査報告書の刊行  (西善寺の文化財)</p> <p>(5) 市重要有形民俗文化財「松本城下町の舞台」の修復事業に対する補助金の交付</p> <p>(6) 城下町文化財の「登録文化財」への支援</p> <p>(7) 「まるごと博物館」構想の推進</p>
<p>3 啓発・PR活動</p>	<p>(1) 松浦晃一郎先生（元ユネスコ事務局長）の講演会を開催  2月17日に300名が「世界遺産の現状と将来」のテーマで講演を聞いた。松浦先生には松本城を熱心に視察いただき、松本城の世界遺産登録に向けた助言をいただいた。犬山市・彦根市からも参加。</p> <p>(2) 松本城検定クイズの実施  小学生に国宝松本城の歴史や知識についてクイズ形式による授業を行い、松本城への興味を持つきっかけづくりをした。  小学生にも好評で11月16日に筑摩小学校で6年生96名参加。2月25日に開智小学校で4年生29名が参加。</p> <p>(3) 姫路城見学会の実施  昨年犬山・彦根城に続き国宝4城の連携と学習のため、姫路城を10月29日に訪問。11名の参加者が姫路城管理事務所より現地で案内説明を受けた。  詳細は週刊まつもとに掲載。週刊さく・いな・す</p>

	<p>わ・いいだでも掲載。</p> <p>(4) 松本城・旧開智学校写生大会、展覧会への協賛 松本市教育委員会などの主催。写生大会は22年10月3日に実施。展覧会は23年1月20日より25日、応募作品400点を「井上」で展示した。</p> <p>(5) 松本城・旧開智学校絵画展開催 (23年3月8日より4月7日) 同展覧会の特選から銅賞作品41点を八十二銀行営業部ギャラリー（大名町）で展示した。</p> <p>(6) 3城高さ比べパンフレットの制作 松本・彦根・犬山の3城のお城の高さを題材に、子供向けに3城連携のパンフレットを初めて制作。3市の子供が地元の城のほかにも他の城に興味を持たせる意図。彦根・犬山の協力も得た。</p>
<p>4 世界遺産保護、文化財保護活動との協力</p>	<p>(1) ICOMOS（国際記念物遺跡会議）へ会員としての協力</p> <p>(2) 日本ユネスコ協会連盟の運動への協力</p>
<p>5 世界遺産にかかわる調査、研究活動</p>	<p>(1) 国宝四城近世城郭群研究会担当者会議を実施し、調査研究及び情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回研究会 6月30日（松本市）</li> <li>・第9回研究会 8月21日（犬山市）</li> <li>・第10回研究会 2月18日（彦根市）</li> </ul> <p>平成21年度からICOMOS等に関わる専門家を招いて研究会を引き続き実施。</p> <p>(2) ICOMOS、UNESCO（国連教育科学文化機関）等関係団体の動向調査、情報収集</p> <p>ア 2010年（平成22年）7月25日から8月3日にブラジルのブラジリアで行われた、第</p>

34回世界遺産委員会は新たに21件を登録され全911件となった。(自然遺産180件、文化遺産740件、複合遺産27件) なお初登録されたマーシャル諸島共和国のビキニ環礁などのいわゆる「負の遺産」が新たに登録された。

イ 「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」(新潟県)と「百舌鳥(もず)・古市古墳群」(大阪府)世界遺産条約関係省庁連絡会議(政府)は、10月6日上記の2件を世界文化遺産国内候補として暫定リストに追記記載することを決定した。政府は、同月中に、UNESCO(国連教育科学文化機関)に送付した。

結果、すでに暫定リストに登録されたものを含め合計14件となった。

ウ 「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」(岩手県)は、2008年(平成20年)の第32回世界遺産委員会で記載延期(※1)になった。構成遺産数を9資産から「中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山、柳之御所遺跡」の6資産に絞り込んで「平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として再提出し、2010年(平成22年)の9月の現地調査を実施した。

2011年(平成23年)5月ICOMOSにより「記載」の勧告が行われ、6月の世界遺産委員会において登録が決議された。

(※1) 記載延期・・・世界遺産としての顕著な普遍的価値の証明そのものが十分でなく更なる調査研究が必要。

エ 「小笠原諸島」(東京都)は、2007年(平成19年)1月、政府からUNESCOに世界遺産暫定リスト提出。

2011年(平成23年)5月、ICOMOSより「記載」の勧告が行われ、6月世界遺産委員会で登録が決議された。

オ 近年、世界遺産の新規記載数を極力抑制し、専門的な評価を厳格に行う傾向にあり、新規記載は、厳しくなっている。

### (3) 国内他地域の動向、情報収集

#### ア 「国立西洋美術館・本館」(東京都)

フランスをはじめ6か国で記載を目指す、「ル・コルビジェの建築と都市計画」には、22の構成遺産の中に国立西洋美術館・本館(東京都)が含まれ、第33回世界遺産委員会でその基本的意義は認められたものの20世紀の巨匠建築家により大陸、地域を跨る構成遺産群として、顕著な普遍的価値を証明することや共同管理計画の必要性などの具体的な課題を付され登録に至らず「情報照会(※2)」の決議がなされた。その決議を踏まえ、「ル・コルビジェの建築作品ー近代建築運動への顕著な貢献ー」に変更し、構成遺産を3遺産減らし19資産とし、2011年(平成23年)2月に追加情報を提出した。

2011年(平成23年)5月 ICOMOS により「不記載」(※3)の勧告が行われ6月の世界遺産委員会で「記載延期」と決議された。

(※2) 情報照会・・・世界遺産としての顕著な普遍的な価値があることは、証明されているが、補足情報が必要。

(※3) 不記載・・・記載にふさわしくないもの。

#### イ 「善光寺と門前町」

提案書作成にあたり専門分野の有識者によるワーキンググループを編成し、信仰資産では他

と類似するため、信仰を核とした寺院・宿坊群・仲見世・門前を有する「生きている善光寺門前町」というコンセプトに集約し、平成19年12月、資産の名称を「善光寺と門前町」に変更して再提案書と検討状況報告書を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当

○指摘課題への対応及び動向

「世界遺産登録を進める会」（事務局：商議所）と市教委で、詳細研究等を進める。当面、大勸進、大本願、宿坊群の国の重伝建地区選定に向けて取り組む予定。

推進役のすすめる会と市教委では、今後の調査研究の取組について、「近世寺社と門前町関連の文化遺産」の観点から学術的な詳細研究を進めていく予定。また、重伝建地区選定に向けては、今後、地域住民の合意形成を図った上で、文化庁と協議する予定。

ウ 「妻籠宿・馬籠宿と中山道」

平成19年3月南木曾町と中津川市は、両市町にまたがる資産構成内容を検討し、歴史的人物や文学作品等も視野に入れ、共同で再提案することに合意し、同年12月資産の名称を「妻籠宿・馬籠宿と中山道－『夜明け前』の世界－」に変更し両県と共同で再提案書等を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当

○指摘課題への対応及び動向

木曾郡の全町村、教育委員会で構成する「木曾地区遺産保護活用推進協議会」を設立し、今後の対応を検討する。平成22年2月に講演会「世界遺産の基本的な方向について」（国土舘大教授）があり、地域住民の意識高揚をはかった。

平成23年4月27日に中津川市と今後の取り組みについて協議をおこなった。市内峠地区で重要伝統的建造物

群（重伝建）をめざす動きがあり、南木曾町との共通認識が深まり行動連携に向け良好な関係を構築してきている。

#### エ 「岡谷の製糸遺産」の新規提案

平成19年9月、岡谷市は「日本製糸業近代化遺産～日本の近代化をリードし、世界に羽ばたいた糸都岡谷の製糸遺産～」を新規に文化庁へ提案書を提出した。結果は、カテゴリーⅡに該当

#### ○指摘課題への対応及び動向

市教委内部で、構成資産の見直しと今後の対応を検討中。近代化遺産及び製糸資産を活用した街づくりをすすめるための事業を継続実施している。姉妹都市である富岡市と交流を深めており、市が所有するフランス式繰糸機（そうしき）を富岡市に寄託するなど（10月16日式典）新たな相互連携方法や交流事業を具体化している。

県内で製糸産業が隆盛した上田市とも見学会、情報交換をおこなっている。

今後、富岡市とガイドの交流等の市民レベルの活動を企画する予定。

※担当の鮎沢さん、H23度富岡市へ通年派遣

#### オ 「南アルプス世界自然遺産登録推進協議会」

平成20年4月、伊那市において推進協議会設立後初めての総会を開催し、世界自然遺産登録に向けた第一歩としてジオパーク（地質遺産を含む地質公園 ユネスコが推進活動を支援）への取り組みを推進していくことを決定した。（長野、山梨、静岡3県10市町村で構成）